『陰キャ（？）男子に落とされそう!?』

紫　まひろ

『登場人物』

篠崎（しのざき）　はじめ・・・前髪に目が隠れて見えないという見た目は陰キャな男子。
感情表現が乏しく、見た目で暗い陰キャと勘違いされるが、
それは見た目だけで友達も普通にいる。
好きなものは隠さないタイプのオタクで、好きなものははっきり「好き」
と言う質。そのため、好きな人にも淡々と「好き」と言える。
頭がよく勉強ができてゲームも上手い策士。
えまの明るいところに惹かれ、コロコロ表情が変わる姿が
見ていて楽しく可愛いと思っている。
彼女に告白する為に、友人たちにグループ決めと彼女と二人っきりに
するよう頼んだ張本人。

豊崎（とよさき）　えま・・・感情表現が豊かで、誰とでも分け隔てなく話せる明るい女の子。
実はぐいぐい来られると弱いタイプ。
はじめのことは、大人しめであまり喋らないゲーム好きな頭のいい人
だと思っていた。
勉強が苦手なことに加え、ゲームなどにもあまり詳しくないため、
気は合わないかもと思っている。
特に仲がいいというわけでもなく、それに加え接点もなかったため、
二人っきりになるのはまだ少々気まずい。
でも別に嫌いでも苦手でもないので話す時は普通に話せる。

楽翔（がくと）　・・・はじめの友人で作戦の共犯①。ゲーム仲間。
はじめに協力を要請され、ノリノリで承諾する

想真（そうま）　・・・はじめの友人で作戦の共犯②。ゲーム仲間。
はじめが持つえまへの気持ちに気付いており、心の中で「(距離が縮まるような）いい機会があればいいな」と応援していた中、今回はじめから協力を要請され快く承諾した。上手くいけばいいなと願っている。

綾（あや）　・・・えまの友人。はじめから協力を要請され承諾した共犯③。
ウキウキしているし、正直隠れてこっそり様子を見たいと思ってる。

まき　・・・えまの友人。はじめから協力を要請され承諾した共犯④。
「めっちゃ素敵じゃん！　絶対成功して欲しい！」と思っている。

①嵐山・とある土産屋の前(昼間)

土産屋の前にいる、えま・綾・まき・楽翔・想真。

えま　「お土産購入完了〜！」

まき　「えまちゃん、なに買った？」

えま　「私ラスク買ったよ。ほら、これ」

綾　「あ！　抹茶のやつ！　私これネットで見た！」

えま　「そうそう！　美味しそうだったからさ〜。買っちゃった」

想真　「ってか楽翔(がくと)、あいつ来なくね？」

楽翔　「確かに。なぁ〜豊崎(とよさき)〜。あと一人は〜？」

えま　「え？　まだお土産買ってると思うけど」

楽翔　「ふ〜ん……(閃く)っ、ふふん……じゃあ、俺らはもう先行こうぜ〜！」

えま　「え？」

綾　「(楽翔の意図に気づく)っ！　そうだね〜！　待ってるのもだるいし〜(笑)」

えま　「はっ？　いや、綾？　何言ってんの？」

綾　「だっておっそいんだも〜ん。待ってても時間の無駄だし、
（まきに向かって）ねぇ？　（笑）」

まき　「確かに〜。私早く次行きた〜い（笑）」

えま　「まき！　何言ってんの！　皆で行動しなきゃダメでしょ！
グループなんだから！」

想真　「今は自由行動の時間だし、別にいいんじゃない？（笑）先生もいないし」

えま　「想真（そうま）くんまで……いや、だとしても……！」

想真　「そんなに言うなら、豊崎（とよさき）は待っててあげれば？
一人にしたら、あいつがかわいそうだし？（笑）」

えま　「はぁっ……?!　いや皆で待っててあげればいいじゃん！」

まき　「えぇ〜……でも私早く次行きたいし〜」

楽翔　「二人は後から一緒について来ればいいじゃん」

綾　「そうそう！　一緒に！（笑）」

えま　「はぁっ〜?!　なんでそうなるの……?!」

想真　「じゃ、俺ら先に行ってるから。二人で仲良く来なよ」

まき　「（クスクス笑い）。ばいば～い！」

えま　「ちょ、ちょっと待ってよ！」

綾　「じゃあね～えま～！」

楽翔　「あとはお二人で～！」

えま　「え、ちょっと！　皆！　待ってよ！」

四人、走ってその場を去る。（ＳＥ）

えま　「はぁ……ほんっとになんなの、四人揃って……んもぅ～～……！」

はじめ、えまの元へやってくる。（ＳＥ）

はじめ　「ん……豊崎（とよさき）さん？」

えま　「あ……篠崎（しのざき）くん……」

はじめ　「あれ……他の四人は……」

えま　「あぁ……なんか、勝手に先に行っちゃって……」

はじめ　「……あぁ（理解）……そういうこと……」

えま　「……なんか、ごめんね」

はじめ　「あいや……豊崎さんが謝ることじゃないよ。……とりあえず、行こっか。この後は渡月橋に行く予定だったし、行けば合流できるでしょ」

えま　「そうだね。あ。えっと、地図地図……」

はじめ　「あ……俺、道分かるから大丈夫だよ」

えま　「え？　ほんとに？」

はじめ　「うん……こっち」

えま　「あ、うん……」

はじめ・えま、共に歩き出す。（ＳＥ：少し流してから徐々にＦＯ）

②嵐山・渡月橋に向かう道のり（昼間）

はじめ・えま、並んで歩き続ける。（ＳＥ：ＦＩ）

えま　「……篠崎くん、なんで道わかるの？」

はじめ　「あぁ……渡月橋はアニメでも聖地になってて……行きたかったからかなり調べてたんだ。それで……」

えま　「あぁ～……そうなんだ……」

二人の間に沈黙が流れる。
少しの間、足音ＳＥのみ。

はじめ　「……」

えま　「……」

ＳＥ（ストップ）

えまＭ　「き、気まずい……会話が続かない……」

えまＭ　「篠崎（しのざき）くん……ちょくちょく話したことはあるけど、あんまり関わりないから、がっつり話したことはないしな～……」

えまＭ　「ん～……目元はいつも前髪に隠れてて見えないし……
あんまり喋らない暗めの陰キャ的な……はっ、これ悪口になっちゃうか……」

えまＭ　「勉強ができて、ゲームとかアニメが好きっていうのはなんとなく
知ってるけど……私は勉強苦手だし、ゲームもアニメも詳しくないから、
気も合わなそうなんだよな～……」

はじめ　「ねぇ、突然だけど、豊崎（とよさき）さんって恋人いる？」

えま　「……えっ？」

はじめ　「いや、恋人」

えま　「え……急に？」

はじめ　「あぁ、ごめん……気になって」

えま　「あぁ（理解）……まぁ、いない、けど」

はじめ　「じゃあ好きな人は？」

えま　「え……別にいない……」

はじめ　「そっか……じゃあ大丈夫か……」

えま　「え、なにが？」

はじめ　「いや。俺、豊崎（とよさき）さんのこと好きなんだよ」

えま　「……ん？　……えっ……ん？」

はじめ　「だから、俺、豊崎（とよさき）さんのこと好きなんだよ」

えま　「えっ？　……え、いや、ん？　待って……え？　え……?!
好きって……私のこと、が……？」

はじめ　「うん。そうだよ」

えま　「……えぇ?!?!?!?!　え、ちょっと待って……待って待って待って待って……
え……?　えぇ……?!　え……ほんとに……?　ほんとのやつ……?」

はじめ　「本当だよ。こんな嘘つかないし」

えま　「そ……そっか……えっと……なんで……?」

はじめ　「なんでって……（考える）……明るくていいなって思ったのが最初、かな。
俺は感情があんまり表に出ないし、明るいわけでもないから、いいなって。
それで、楽しそうに笑ってたり、子供みたいに頬膨らませて怒ったり、
ショック受けたら呆然としたり、そうやってコロコロ表情変わるのが見てて楽しくて、可愛いなって思うようになった」

えま　「かっ、かわいい……（照れたように）……そ、そうかなぁ～?
うるさいだけで、可愛くはないと思うけど……」

はじめ　「なんで?　豊崎（とよさき）さんは可愛いよ」

えま　「うっ……ッ～～!（照れが溢れる）」

えまM　「待って待って……?!　展開が急すぎてついていけない……!
というか、篠崎くんってこういう感じの人だったの……?!
イメージと全然違うんだけど……!?」

はじめ　「?　どうしたの?」

えま　「えっ?!　あ……いや……」

はじめ「……もしかして、俺が想像してた感じの奴じゃなくてびっくりしてる？」

えま「えっ!?　なんで?!」

はじめ「豊崎さん、俺のことコミュ障の陰キャオタクだと思ってたでしょ。
まぁ、陽キャじゃないのは確かだし、オタクなのも間違いないけど……
もっと陰湿でオドオドした奴だと思ってた？」

えま「いや、えっと……う……はい……」

はじめ「ははっ、やっぱり。まぁ、こういう見た目だからしょうがないけど、話そうと思えば普通に人と話せるし、こう見えて友達もちゃんといるんだよ」

えま「……すみません」

はじめ「いいよ別に。豊崎さんは好きな人だから、許してあげる」

えま「ッ！　っ～～！」

はじめ「あ、かわい。その顔」

えま「だからっ！　そのさらっと『可愛い』とか『好き』って言うのやめて！
恥ずかしいから！　篠崎くんは恥ずかしいとかないの?!」

はじめ「え、いや別に。思ったから言ってるだけだし……。好きなものに『好き』って言ったり、褒めるのは普通じゃない？
推しに対しても、好きな人に対しても……」

えま「オタクの悪いところ出てる！　これだからオタクは！」

はじめ「まぁ、オタクは軽率に『好き』とか『可愛い』って言う生き物だからね。
俺は豊崎（とよさき）さんのことが好きだから『好き』って言うし、
可愛いと思ってるから『可愛い』って言うよ」

えま「うっ……いや……えっと……っ、と、というか！　綾たち！
私たちを置いて先に行くとか、冷やかしにもほどがあるよね～！
小学生じゃないんだから……！　（話を逸らして誤魔化すように）」

はじめ「あー……ごめん。それ俺がお願いしたからだと思う」

えま「え？」

はじめ「『豊崎（とよさき）さんに告白したいから二人っきりにして』ってお願いしてたんだよ。
こんな感じになるとは思わなかったけど……」

えま「え……そう、だったんだ……え。じゃあ……これは、全て仕組まれていた……？」

はじめ「うん、まぁそうだね……。もっと言うと、グループ決めの時から、
一緒にしてほしいって俺がお願いしてた」

えま「えぇぇ!?」

はじめ　「ちなみに、豊崎（とよさき）さんのお友達も協力者だよ」

えま　「あの二人も共犯なの?!　そこまでしてたなんて……」

はじめ　「まぁ、本気で告白するつもりだったからね。
……それだけ、俺が本気だったってことだよ」

えま　「っ！　……い、いや、でも……私たちって、別にまだそんな仲良くないし……」

はじめ　「うん。だから、今日ＯＫもらえるとは思ってないし、告白の返事もいらない」

えま　「え」

はじめ　「でも、さっきの告白で、俺のこと意識してくれたでしょ？
だから今回の目的は達成」

えま　「え……？」

はじめ　「あとは距離を縮めていくだけだから。よろしくね」

えま　「……えっ……え……？」

はじめ　「じゃあ早速だけど、『えまちゃん』って呼んでいい？」

えま　「えっ?!　あっ……別に、いいけど……？」

はじめ　「本当？　よかった。じゃあ、俺のことも『はじめ』って呼んでね」

えま　「えぇ?!　いや、私はまだ……！」

はじめ　「ほら」

えま　「っ……！　っ……は、はじめくん……？」

はじめ　「（嬉しそうな笑いを零して）……うわ、うれし……」

えま　「っ！　（きゅんとする）」

はじめ　「じゃあ、えまちゃん。ふっ……これから、覚悟しててね」

えま　「ひっ……ひぇっ……」

③嵐山・渡月橋に向かう道のり（昼間）

場面が代わり、先へ進んでいる楽翔・想真・綾・まき。

楽翔　「はじめ、告白上手くいったかな?!」

綾　「んんーどうだろ？　ねぇ！　やっぱり戻っとく？」

まき　「だーめ！　篠崎（しのざき）くんに協力するって約束でしょ！　絶っ対邪魔しちゃだめ！」

綾　「え～！　でもぉ～！」

想真　「ほーら二人とも、野次馬根性抑えて。二人っきりにさせとこ」

楽翔　「でもさぁ！　想真（そうま）は二人のこと気にならねぇの?!」

想真　「そりゃ気になるけど……これははじめにとって、やっと来た告白の機会なんだから、邪魔するのは野暮でしょ。
はじめのこと応援してた身として、俺もあの二人には上手くいってほしいし……だからほら、俺らは先行って待ってるよ～」

まき　「うん！　ほら綾！　楽翔（がくと）くん！　私たちも行くよ！」

楽翔　「……は～い」（綾と同時に）

綾　「……は～い」（楽翔と同時に）

〈ＥＮＤ〉